

# 政務活動費（ 会 派 名 ）出張報告書

平成 30年 4月 27日

氏 名 ・福田 幸博 ・亀田 博 ・吉田 真次 ・井川 典子	用 務 ・「幼児教育・保育の無償化」 ・「リノベーションによるまちづくり」
期 間 平成 30年 4月 23日から 平成 30年 4月 25日まで	出張先 門真市 和歌山市

## 調査事項・意見

### ・門真市「幼児教育・保育の無償化」

#### <導入までの経過>

平成28年7月に宮本市長が初当選をし、公約に掲げた保育の無償化に取り組んだ。子ども子育て会議で議題とし実践方法について審議を行った結果、実施方法等を妥当とする旨の答申を得た。

平成29年度当初予算が成立。4月から5歳児の幼児教育・保育・療育の利用者負担の無償化の適応開始となった。12月には再び部会において利用者負担についてを議題とし、対象範囲を4歳児までに拡充することを審議し、平成30年4月に適応開始となった。

#### <現 状>

門真市モ人口減少と少子高齢化が進んでおり、特に子育て世代の流出防止と流入に向けた取組が課題。

子育て、教育に重点的な対策を行い、魅力のある教育・保育環境を創出することにより、子育て世帯の流出を防ぎ、流入を促す。

#### <効 果>

幼児教育・保育の意義は、生涯にわたる人間形成の基礎となる、重要な役割を担うものである。

集団生活の中で、自発的な活動としての遊びを通し、心身の調和のとれた発達の基礎を培い、自主・自立・共同の精神を養う。生命や自然に対する興味を養って正しい理解と思考力の芽生えを養っていく。又大人との信頼関係を基礎として、子ども同士の関わりの中で、身体的・知的発達と道徳的発達が促される。  
すべての子どもに質の高い幼児教育・保育を保障する。

#### <今後の課題>

- ・安定財源の確保、待機児童や保育士の確保も含めた質の向上
  - ・対象年齢の拡大（0～2歳児）
  - ・認可外保育施設への費用負担
- ・和歌山市「リノベーションのまちづくり」

わかやまリノベーション推進指針

#### <目的と位置づけ>

まちなかに雇用と産業の創出を図っていくため、公民連携のもとリノベーションによるまちづくりに取り組んでいる。

#### <市の課題>

遊休不動産の活用によるまちなかエリアの価値の引き上げやコンテンツの充実。  
質の高い雇用の創出と財政改善。

#### <テーマ>

- ・公の教育と民の教育を掛け合わせて、教育高品質なまちを目指す。  
質の高い教育機会と子育て環境の提供による「学」の要素を充実させる。
- ・子育て世代をはじめとする世代の住居促進を行う。
- ・住む・遊ぶ・学ぶ・育てる・働く等、ライフスタイルや文化、スポーツを提供することで、都市型産業の振興や雇用の確保、多世代の交流を促進できる。

#### <実現のための戦略>

空き家を子供向け教室にリノベーションして活用したり、遊休不動産を住宅に転用した。又、空き店舗をレストランや日本酒バーなどにリノベーションして、賑わいと雇用を生み出した。

民間の駐車場を農園に転用したり、まちなかと駐車場や大学を結ぶ二次交通の整備や道路の歩行者空間化を作り、今ある環境の中で新たな観光戦略やエリアのネットワーク化と情報発信を行った。

民間まちづくり会社を中心に、市と不動産オーナーや事業オーナーが連携して、遊休不動産や公共空間のリノベーションを通じてコンテンツを生み出していっている。

- ・市民参加型の委員会をたちあげ、6回開催したが、延べ600人以上の方が参加し、一般参加者の意見も反映させてリノベーションを行っていった。

やはり、市民を巻き込むことが大事である。